

# 高校生がこれまでの自己を見つめ将来を展望するための探究活動

学 籍 番 号 229206  
氏 名 岡本 康平  
大学院主指導教員 平井 美幸  
大学院副指導教員 梅川 康治

## 第1章 緒言

中央教育審議会（2021）は、2020年代を通して実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿について「個別最適な学び」や探究的な学習や体験活動を通じて「協働的な学び」を示した。多くの高等学校総合学科では、3年次に総合的な探究の時間において「課題研究」が行われている。総合学科での学びの中から自身で課題を設定し、探究するものである。実際に、課題研究（看護・福祉）の指導の中で受け持つ生徒の多くが“自己と向き合い・将来を見つめる”研究に取り組んだ。生徒が多様化する中で、探究学習において“これまでの自己を見つめ将来を展望”することは、キャリア教育や福祉教育の視点からも意義あると考える。また、新学習指導要領改訂に伴い、総合学科や専門学科以外の学科でも探究活動が積極的に行われるようになってきている。本実践課題研究は、高校生がこれまでの自己を見つめ将来を展望するための探究活動を検討することを目的とする。

## 第2章 総合学科「課題研究」を看護・福祉のテーマに設定した生徒の思いや期待 — なりたい自分・自分らしく生きる力に着目して —

本章では課題研究における生徒の思いや期待について明らかにすることを目的に、A高等学校3年次・卒業研究看護福祉講座選択者6名を対象に半構造的にインタビューを実施した。本分析ではKJ法（川喜田，1967他）を援用した。

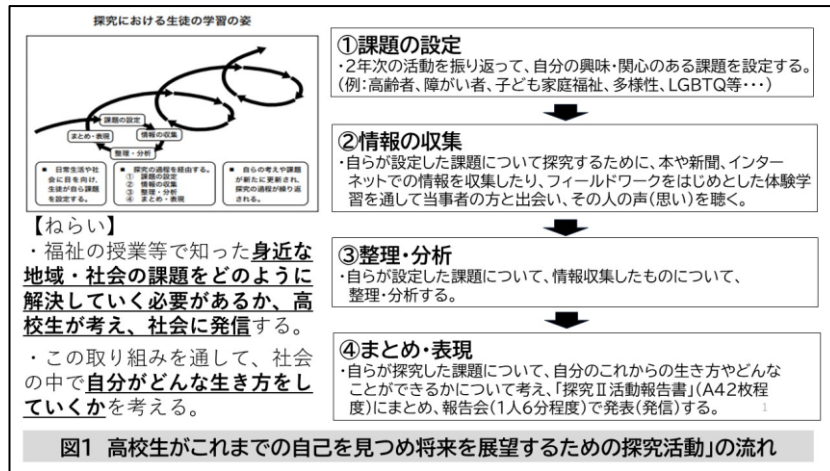
課題研究における生徒の思いや期待は、【卒業研究に取り組むにあたってよかったこと】として、自分がこれまで取り組んだ研究について自分なりの答えが見つかったことや他の生徒が研究発表について傾聴してくれることから＜達成感＞を感じていた。一方で、【卒業研究に取り組むにあたって困ったこと】として、＜研究の進め方＞、＜論文やプレゼンについて＞、＜入試との両立＞があった。これらを通して【卒業研究に取り組むにあたって期待すること】は、＜プレゼンの日程・発表時間＞の調整、＜こまめな面談と論文・プレゼンテーション指導＞や＜モチベーションを高める＞ことについて期待していた。また、【高校生活を通して成長したこととこれからの生き方・あり方について】＜高校生活を通して成長したこと＞や卒業研究を通して研究してきたことを踏まえて＜これからの生き方・あり方＞について展望していることが示唆された。

## 第3章 普通科福祉保育コース「介護総合演習」における探究活動の実践

本章では、B高等学校普通科福祉・保育専門コース3年生の介護総合演習の授業において、生徒が“これまでの自分を見つめ、将来を展望する”介護総合演習における探究活動の

構想・実践・評価の検討を行うことを目的とした。

全体構成（図1）では、実施期間は4月から11月とし、9月に中間発表会、11月に探究活動報告会を実施した。成果は、探究活動報告書（A4・2枚）にまとめることとした（表1）。書くことや発表



することが苦手な生徒が多く、年度当初は生徒から不安の声が聞かれた。そのため、全体構成の各項目に合わせてプリント教材を作成し、「スモールステップ」の指導で「課題の設定」に力を入れた。報告書を書くことにこだわるのではなく、「探究における生徒の学習の姿」(文部科学省,2018)のプロセスを体験してもらう事に指導の重きを置いた。

生徒が意欲的になったのは、9月中間発表会以降であった。他の生徒の発表に対して刺激を受け、尊重する姿が見られた。11月探究活動報告会では、これまでの人生や学びを通して設定したテーマで探究した結果を発表し、将来についての語りが認められた。探究活動報告書では“これまでの自己を見つめ・将来を展望する”記述として、【福祉・保育コースの学びを通して】【職業観】【自己の生き方・あり方】【生きやすい社会を願う】の4つの分類がみられた(表2)。

このことから、生徒は課題意識から解決したい探究テーマを持っていたこと、聞き手の集団の雰囲気を受容的・共感的であったから心理的安全性が確保されたことの2点により、自己の探究を伝えたいとの思いが生まれたことで意欲的な生徒自身による探究活動への取り組みにつながったと考えられた。

## 第4章 総括

“これまでの自己を見つめ・将来を展望する”探究活動は、キャリア教育の視点からも、福祉教育の視点からも有効性があると示唆された。

課題としては、文章を書くことや発表することが苦手な生徒への指導支援の検討や実践を通して引き続き研究を積み重ね改善していきたい。また、この取り組みでは、自己開示できる「集団づくり」が必要であることから、探究活動はもちろんのこと、教科指導全体において他の生徒のよさを認め合ったり、生徒自身の自己肯定感を高めたりする教育活動を模索していきたい。

表1 探究活動報告書の構成

第1章	はじめに(探究動機・問題提起・研究方法)
第2章	先行研究(文献検討)
第3章	テーマの探究のために実践した活動
第4章	考察
第5章	今後の課題と展望(今後に向けて)

福祉・保育コースの2年間の学びも含めて、探究活動から見てきた今後の課題(自分自身の課題も含む)やこれから探究してきたことを自分自身にどのように活かしていきたいのか、自分自身が今後どうありたいのかについて書く。

表2 生徒の探究活動報告会後の振り返り

①2年次の社会体験活動や福祉の「探究」で知った身近な地域・社会の課題を考え、社会に発信していく。	できた	76.9%	できなかった	23.8%
②この取り組みを通して、社会の中で自分がどんな生き方をしていくかを考える。	できた	100%	できなかった	0%